

「できる生徒」は並ばない！ 最終盤勉強の基本！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

正月特訓も終了し、いよいよ受験がはじまりました。最後の最後まであきらめずに受験に向かっていってほしいと思います。冬期講習の前半と比べると、質問に並ぶ生徒は減ってきました。これは喜ばしいことです。勉強の基本が「自分で考えて解く！」という事にほとんどの生徒が気がついてきたという事だと思います。夏の頃だったら、小学生の場合は、質問の行列ができその順番でもめたり、行列している本人たちはおしゃべりしていてその無駄な時間の使い方を注意されたり、叱ることが多かったと思います。

わかりたいという生徒が半分、とりあえず自分の努力なしで課題を終わらせたい生徒が半分だったかもしれません。当然のことながら、後者は成績が伸び悩みます。

中高生でも勉強をきちんとやっていない生徒ほどテスト間際の質問が多く、そういう生徒ほど、自分では勉強をしない傾向がありました。当然成績は伸びてはきません。先生が解いて丁寧に教えるのですから、先生の教える技能はアップします。生徒の方は教えてもらってやっと理解するだけではすぐ忘れてしまいます。教えてもらう時間が多い分自分で解く時間が短い生徒は、受験勉強でレベルを上げること自体そもそも無理という事です。

成績が上がってくる生徒は、わからないことを聞いていてもその奥に「自分で解きたい」「解けるようになりたい」という気持ちが強いものです。「聞く量」の何倍もの勉強をしていることが多いのです。今更今までの勉強のことをとやかく言っても仕方がないので、まずはしっかりと、自分で問題に向かいましょう。自分が問題に向かう事で「わかる」に達することは多いものです。教える側は、その理解へのきっかけが創りたいのです。

受験直前期は、「わかる！」というチャンスがたくさんあります。どんなにいい加減に考えていた生徒でも「わかりたい！」というレベルに達してくるからです。

「もう遅い！」とかあきらめるのは早計だと思います。

勉強にいまち自信が持てないでいる生徒は、結局受験が終わった後に、自分がきちんと勉強してこなかったことに気がつきます。自分が勉強できなかったことをいろんなことのせいにして、その時は本当に何かのせいだと思いついでいるのですが、結局は、誰のせいでもなく、なにかの出来事のせいでもなく、すべては自分の責任であることに気がつくのです。

といっても人間何でもかんでもうまくはいかない。どこかで反省したり後悔したりしながらまた次に進むしかないのですが、受験直前期の今はとりあえず「自分で取り組む勉強」を目標に最後の受験時期をやりきってみてほしいと思います。

私の記憶では、受験間際に、今まで「分からない」と思い込んでいたことが、意外と簡単なことだと気がついたことがたくさんあります。追い詰められた時がチャンス！できる生徒は、並ばない。なぜなら並んでいる時間があったくない…。先生は利用するのではなく、活用する！…勉強がかみ合うとすべてが良い方向に動き始めるはずで
す。がんばろう！